

国際ロータリー2560 地区目標

ロータリーで
人生をより充実させよう

高田ロータリークラブ会長方針

一所一期一会

持続可能な
インパクトを
生み出そう



国際ロータリー会長 オラインカ・ハキーム・ババロウ

第 2560 地区ガバナー 富山 洋

高田ロータリークラブ会長 吉原耕一

幹事 鈴木陽一

広報・会報・雑誌委員会：

阿曾 晋 丸田健一 釜田英一 梅津真揮夫

第 11 回例会 10 月 2 日(金)

No. 11

会長挨拶

● 吉原 耕一



皆様、こんにちは。今日の例会から鈴木幹事さんが復帰されました。鈴木さんお帰りなさい。

皆様にお願ひですが、鈴木幹事さんにつきましては、本調子に戻るまでしばらくは、アルコールを伴う席に関しては、失礼させていただくことをご承知おき下さい。

さて、ロータリーの 10 月の特別月間テーマは「経済と地域社会の発展月間」です。また日本独自の月間テーマとして「米山月間」とされています。本日はその「米山奨学委員会」と「ロータリー財団委員会」さんに例会をご担当いただきました。どちらも寄付に関する委員会ですが、普段はなかなか意識しないその意義と意味を再確認するための例会になると思います。

現在、衛星クラブも含めての高田ロータリークラブの会員の内、入会 3 年以内の方が 29%、10 年以内の方が 58%という状況です。入会年度の浅い方の中には、ひょっとしたら、両方の寄付の目的や仕組みの違いが不鮮明な方もいるかもしれません。本日はぜひ「ロータリー財団とはなんぞや」「米山奨学制度はどんな目的で発足し、どのようになっているのか」などといったことを、再度勉強していただいて、

その意義と目的をよくご理解いただき、その結果としてクラブの目標寄付額に届けばと願っております。

また明日は第 7 分区 IM です。IM についても、入会年度の浅い方のために少し解説させていただきます。IM とは、インターシティ・ミーティング のことです。同一地区内や近隣の複数のロータリークラブが集まり、ロータリーの活動理解を深めるために活動報告や講演、意見交換、親睦を行う会とされています。ひと言でいうと IM は、近隣クラブが集まって交流し、学び、地域や奉仕について考える合同勉強会のような場でしょうか。なお、地区大会との違いですが、地区大会は国際ロータリーが定める「地区」(当地域にせんとひやくろくじゅう)でいいますと 2560 地区と言います)すべてのクラブが集まる年次大会が地区大会です。地区ガバナー方針の共有、表彰、研修、記念講演など、地区全体の運営と方向性を確認する場です。IM は中規模、地区大会はより大規模と言えると思います。

明日の IM の講演会では、今後、当上越地域に大きな影響をあたえるであろう妙高地域開発を手掛けるペイシャンスキャピタルグループのケン・チャン CEO の講演会が予定されています。

では、本日もよろしくお願いいたします。



出席報告

96.15%

セレモニー



2026-27 年度地区役員委嘱状
寄付・資金・ポリオプラス委員会副委員長 高坂光一君

メイクアップ

大谷光夫君・遠藤 巖君・羽深耕時君・本山秀樹君・橋詰敏一君・宮下啓三君・岩井弘人君：9/26(土)第 7 分区 IM 記念ゴルフ大会
鈴木陽一君：9/26(土)奉仕プログラムセミナー

ニコニコBOX紹介

鈴木陽一君：1 か月お休みをいただきましたが、また元気に皆さんとお会いできました。よろしくお願いいたします。
宮下啓三君：9/24(土)第 7 分区 IM 記念ゴルフ大会において、無理矢理「高田 RC」のみのミニコンペを開催していただき優勝してしまいました。

委員会報告



親睦委員会：10月の会員お誕生日 各お祝い
 <誕生日> 川上裕一君・橋本真孝君・山本 智君
 小池猛紀君
 <結婚記念日> 佐藤信明君・遠藤 巖君・東野秀和君
 高橋正彦君・高橋俊宣君

会員インフォメーション

丸田健一君：10/31(土)宇宙へつなぐ上越の未来へのバトンのお知らせ

幹事報告

配布物：週報No.10、ロータリーの友 10月号
 米山記念奨学会豆辞典
 10/31(土)宇宙へつなぐ上越の未来へのバトンチラシ
 回覧物：ガバナー月信 10月号
 公共イメージ推進事業「ストーリーテリングキャンペーン」について
 報告：明日 10月3日第7分区IM
 (登録 13:30~13:50 式典 14:00~)
 10月のロータリーレート 157円/\$

委員会卓話： ロータリー財団委員会 ＊ 米山奨学委員会

ロータリー財団委員会 佐藤委員長



ロータリー財団の使命とは、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることとあります。

ロータリー財団は 100 年以上前に創立され、財団は教育の支援や持続可能な成果を生み出すプロジェクトに総額 40 億ドルを注ぎ込んでいます。奉仕事業を自身で立案、提案、実行に移すのは大変なエネルギーと労力が必要です。それを財団に献金することにより、有効活用することが自身の奉仕活動となります。実践すれば補助金としてもらえ、持続可能なプロジェクトに使用も可能です。

ポリオプラスについてはわずかな寄付で、一人の命を救うことができます。一人の子どもをポリオから守るのに必要なワクチンコストはわずか 60 セント(約 60 円)。さらに、ロータリーと提携するゲイツ財団が寄付に 2 倍額を上乗せするため、寄付が 3 倍になってポリオ根絶活動に生かされます。

とにかく今、貢献したい、地域のために何かしたいと思ったら、財団に寄付を願えば、いい形で自分にフィードバックがあると思っています。どうか財団に寄付をよせていただければありがたいと思っています。よろしくお願いします。

米山奨学委員会 石倉委員長



今日は、衛星クラブ・入会して間もない方に向けてお話ししたいと思います。

米山奨学会は、日本全国のロータリー会員の寄付金を財源として、日本に在留している外国人留学生に対して奨学金を支給しています。この事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。2027 年には財団設立 60 周年を迎えます。これまでに 136 の国と地域の諸学生を支援し、規模と実績とともに民間最大級の国際奨学事業となっています。

ロータリーには様々な青少年プログラムがあり、一つはインターアクトクラブとライラ研修です。今年は当クラブがライラ研修の主管です。それと青少年交換、昔のローテックス、ロータリー平和フェローがあります。グローバル補助金を使って、当クラブからも鴛崎真衣さんをオランダに派遣して

います。

それに米山記念奨学生です。米山奨学生の場合は、この事業の真髄ともいえるのが世話クラブ。各クラブが世話クラブとなりカウンセラー制度をとっていることです。奨学生一人ひとりに地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーがついて奨学生との交流を深め、日本での生活が心豊かになるように配慮しています。近々、当クラブでも米山奨学生の受け入れがあると思いますので、ぜひとも 1 回経験し一緒になって活動するのもよいのではないのでしょうか。

＊昨年度の米山奨学生は、新規 15 名、継続者 11 名、クラブ支援奨学生 1 名。米山奨学生の場合、1 年間だけではなく 2 年間というケースもあります。

＊昨年度 2560 地区の寄付金は約 3,530 万円、17,364 円/人。当クラブは 24,253 円/人でした。(70 周年記念事業 30 万円含む)

今年度もたくさんのご寄付をいただけますようお願いいたします。

第7分区 IMが開催されました

10月3日(土)、第7分区 IM がデュオ・セレツソにて開催され、当クラブからは 40 名が参加しました。記念講演はペイシャンスキャピタルグループ株式会社 CEO ケン・チャン氏より「妙高リゾートの開発計画」と題しお話をいただきました。



本日のお食事 生姜焼き定食